役員エッセイ

大通公園を望む窓辺から

『白の時代』のシンボル サクレ＝クール寺院

常任理事　橋本（はしもと）　洋一（よういち）

京都を中心に全国展開を図っているあるタクシー会社が毎月発行しているM新聞の文化欄に、生誕140年記念のユトリロ展がジェイアール京都伊勢丹に隣接する美術館「えき」KYOTOで開催されているという記事を見つけた。ちょうど出席する予定でいた神戸での学会と時期が重なり、神戸空港から神戸にアクセスするのをキャンセルして、伊丹空港行きに変更し、新大阪駅から新幹線で京都に向かった。

今回はユトリロの最も充実した時代とも言われている『白の時代』を中心とした作品展であった。その『白の時代』の代表作とでも言うべきサクレ＝クール寺院はユトリロの子供時代から青年時代にかけて、建設された、まさにモンマルトルのシンボルとでもいうべき建築物だ。今回、幸いにもこのサクレ＝クール寺院の複製画を買い求めることができた。

70あまりの作品を１時間足らずの駆け足で鑑賞し、新幹線に乗り込んで、神戸に向かった。明日から始まる学会の会場と隣接したホテルは私にとって忘れがたい所であった。医師になって初めて学会に参加した会場がこのホテルだったからである。このホテルは1981年に神戸で開催された地方博覧会（神戸ポートアイランド博覧会）が開催された時にオープンした高級ホテルで『港（英語）』を意味する【ポート】と『場所（ギリシア語）』を意味する【ユートピア】との造語であったらしい。遊園地が併設され、その遊園地に設置されたジェットコースターにお供した先生から誘われたにもかかわらず、スピード恐怖症である私は、突然、めまいがしてお断りし、落胆させてしまった苦い思い出が蘇った。

このホテルの１階に併設されたギャラリーで、数年前に神戸港の絵画を購入したことがあったが、今回たまたま、神戸出身の故Ｙ画伯のサクレ＝クール寺院の絵画を入手させて戴くことになったのも何かの縁だと思っている。

外国人看護師・介護士

常任理事　伊藤（いとう）　利道（としみち）

先日、福井県の高齢者施設に15人のインド人スタッフが働いている様子を取材したテレビ番組を見ました。彼女たちは母国で看護師の資格を取得しており知識や技能は問題ないとのことでした。番組で見る限り日本の習慣なども理解しており介護士として優秀であると感じました。

数か月前までグループホーム入居者に対し訪問診療を行っておりましたが、そこの施設にも20～22歳のインドネシア人の介護助手が１年ほど前より働いておりました。皆さん仕事の覚え方が早く、日本人スタッフ・入居者に溶け込んでいるようでした。先日、彼女たちが当院で健康診断を受けましたが、問診書なども漢字で正確に書かれており優秀さを感じました。介護福祉士の勉強をしているとのことで頑張って合格してほしいと思いました。

ある会議で地方の医師会長の方が、看護師が全然集まらないので外国人看護師を採用しようかと思っていると話されておりました。札幌はともかく地方での人手不足の深刻さを実感しました。詳しくは知りませんが、外国人看護師の採用は簡単ではないようです。

経済連携協定（EPA）によるインドネシアからの看護師・介護福祉士の受け入れは平成20年度、フィリピンからの受け入れは平成21年度、ベトナムからの受け入れは平成26年度からそれぞれ始まったそうです。今後少子化の下、医療介護分野での人手不足が加速すると指摘されております。EPAによる看護師・介護士の受け入れは条件が厳しく、現状では焼け石に水と言われております。最近この条件も緩和されつつありますが、もっと急ぐ必要があると思います。医療介護業界だけでなく、全ての分野で外国人労働者に依存するしかないと以前から指摘されているわけですから。